

既存形態の構成を援用した福島県白河市白河市中心中央公民館の建替計画
—再生建築の建築的部位と空間構成に関する分析を通じて—



過去の建築の幻影が建替え後に引き継がれ断続的な更新を可能にし時間軸をつなぐ。

添田魁人

上部が本設計提案・下部が既存形態である白河市民会館敷地に以前存在した既存形態を踏襲した建替え提案

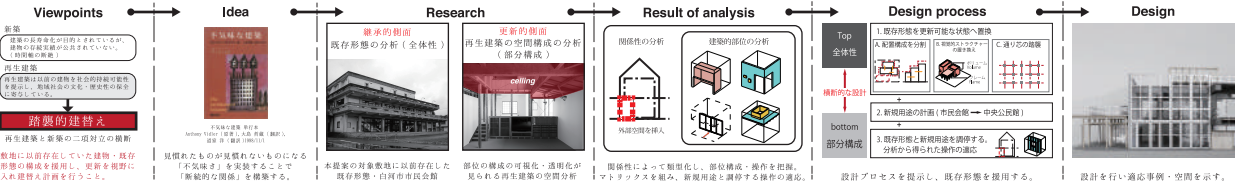
1 序論

1-1. 研究背景

高度経済成長期に整備された公共建築は、一斉に建替え更新・修繕を迫られている。社会ニーズ変化によって設備更新の利便性が追求され、人口割合の変化によって公共施設の長寿命化が求められ、そして公共建築が地域文化の形成を担った事実は忘れ去られた。公共建築の整備において、建替以前の存続実績は考慮されていない。一方で、再生建築をはじめとする既存建築活用の機運は依然として高まり続けている。再生建築は、建築が持つ社会的持続可能性を提示し、地域社会の文化・歴史性の保全を示唆する。従来の建替行為は、以前存在した建物の系譜を断ち切る行為だった。現在求められるのは、地域文化の形成を担った既存建築を社会的持続性に応答させる建替行為、すなわち「踏襲と更新の双方を兼ね備えた設計手法」だろう。

本研究での建替えを「踏襲的建替え」として位置づけ、既存形態の構成を踏襲しながら竣工後の改修・修繕を視野に入れた建替えの手法について提案を行う。提案するにあたり、再生建築の改修後の建築的部位に着目した空間構成の分析を行い、把握・出来た操作を適応することで、公共建築の「建替え」計画における一つの指針を示すことを目的とする。

論理構成



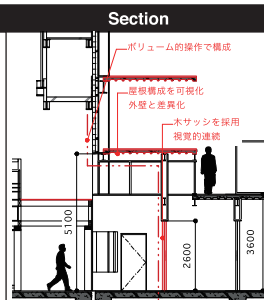
位]・[3次元・領域時空]の4項目に分類を行った。

採用した「踏襲的建替え」を行う。

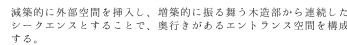
に付加する。	内部と外部を連続した空間を新設・付加	外部空間を拡張する	S 増築の操作 (上部付加)
--------	--------------------	-----------	-----------------------

①減築的操作

美術部門エントランス

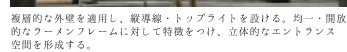
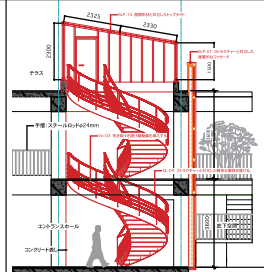


Perth

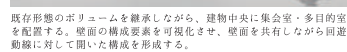
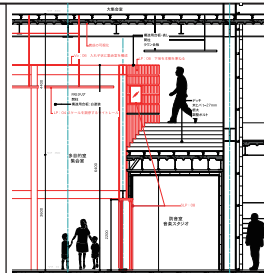


エントランスホール

14

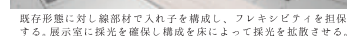
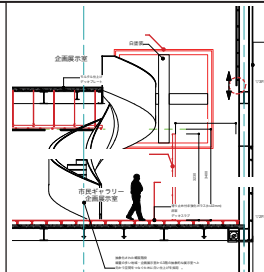


多目的スペース・集

 $\frac{1}{2}$ 

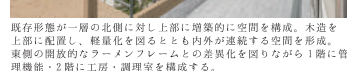
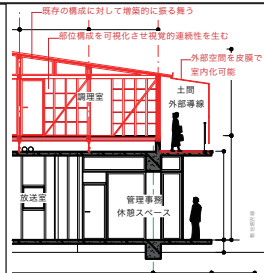
美術部門・企画展示

11



創作部門・工房

1.



Operation adaptation example/visual · model

